

秋冷の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様には、益々ご健勝の事と拝察する次第です。

9月の自衛隊関連行事は6日に都城の中山荘にて青年部会の総会が開催され、私と大草理事の2名で参加致しましたが、規約改正などの原案は全て可決承認された事をご報告申し上げ、是非別紙の総会資料も合わせてご高覧下さい。

また9月16日に開催した私の「黄綬褒章記念祝賀会」には支部会員の皆様からも多数ご臨席を賜り、この場をお借りして衷心より御礼申し上げます。

さて24日から5日間の日程で北欧視察行ってきましたが、所謂小国の悲哀を痛感させられる旅でもありました。

スウェーデンは長い歴史を誇る王国で、ボルボやサーブなどの自動車や戦闘機も作る工業国ですが、お隣のフィンランドや更に小さいエストニアなどの弱小国家は、時代の趨勢でロシアやソ連、ドイツそしてスウェーデン等の大国に併呑され、蹂躪され続けた暗い歴史を引きずっています。

やはり「自分の国は自らで守らねば、何処の国も守ってくれない」と云う厳然たる事実を、改めて胸元に突きつけられた思いです。

今月も小川和久氏のメルマガから一部転載しますのでご一読賜れば幸いです。

・わが日本国の緊張感に欠けるお話

石川県の航空自衛隊小松基地のことを調べていて、興味深いブログを発見しました。

このブログは「飛行機のお話」(<http://www.masdf.com/crm/crm.html>)です。

その第13回(2001年9月25日)「世界で唯一撃墜されたF15Jイーグル」に問題の記述と「証拠写真」があります。

1995年11月22日、小松基地沖合の日本海上で小松基地303飛行隊所属のF-15Jイーグルが訓練中、僚機が誤射したサイドワインダー空対空ミサイルによって撃墜されるという事故がありました。

その原因などはブログを読んでいただければと思いますが、私が注目したのは海

中から引き上げられたF15の機体が、こともあろうにゲームセンターの敷地の、それも公道から丸見えの場所に放置されているという現実でした。

航空自衛隊としては、事故原因の調査のあと正規の手続きのもとで廃棄処分にし、業者に払い下げたものだと思いますが、それにしても車が行き交う道ばたに、計器つきの状態で放置されているというのはあんまりではないかと思えます。しかも、このゲームセンターに戦闘機の機体が放置されていることは、その県内では多くの人が知っているというのですから、開いた口が塞がりません。

ブログの筆者は、その点についても**危惧**の念を隠していません。もちろん**秘密保全**の問題です。

どんな状態かはブログの写真をご覧くださいと思いますが、いかに航空自衛隊が精強だとしても、組織内の違う部署では**秘密保全意識**など薄いままに**装備品の処分**が行われているとしたら、敵がそのセキュリティ上の穴から情報を入手し、対抗手段を講じてくれば、不意打ちを食らうことは覚悟しなければなりません。

このゲームセンターには、往年の主力戦闘機**F104の機体も**放置されているようです。そのうち、F4ファントムや国産のF1戦闘機あたりも仲間入りするのではないかと、航空自衛隊のパイロットたちは苦虫をかみつぶしたような表情を見せています。

2011年、鹿児島県の第10管区海上保安本部が**巡視船を廃棄処分**した際、こともあろうに**朝鮮総連の議長が経営する解体業者が落札**した一件が**読売新聞**によってスクープされました(2013年4月26日付け)。**航跡を表示・保存する装置**を操舵室に残したままだったというのですから、これまたひどい話ですが、日本政府は自衛隊、海上保安庁などの行政財産の処分について、**国家安全保障上のテーマ**だという緊張感を持って臨んでほしいものです。(小川和久)

陸海空自衛隊では一定の使用年限を超えた戦闘車両や航空機、艦船等を用途廃止(用廃)して駐屯地や基地内等に展示している光景はよく見かけますが、例えスクラップとは云え、私は上記のようなシーンを見たことはありません。

小川先生ご指摘の通り所轄官庁は、事の重要性を鑑み防衛関連用廃機材の処分などについては、細心の注意を払って頂かねばなりません。

平成28年10月1日

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦